

2017年1月11日

お客様各位

日本化薬株式会社
アグロ事業部

「クロピクフロー」の登録内容変更のお知らせ

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたびご愛顧いただいております土壌くん蒸剤「クロピクフロー」（登録番号 21220号）が、平成29年1月11日付で下記の通り適用拡大となりましたので、お知らせ致します。引き続き「クロピクフロー」をよろしくお願い致します。

敬具

記

登録番号	農薬名(商品名)	農薬の種類名	製造者名
第21220号	クロピクフロー	クロルピクリンくん蒸剤	日本化薬株式会社

■変更内容

「適用病害虫の範囲及び使用方法」の登録内容が変更になりました。(別紙1参照)

- ①作物名「トマト、ミニトマト、いちご、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、すいか、さやいんげん、ねぎ、セルリー、花き類・観葉植物、なす、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、にがうり、さやえんどう、実えんどう、しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら」、使用目的「前作のきゅうりの古株枯死」「コナジラミ類蔓延防止」を追加する。また、「きく、花き類・観葉植物(きくを除く)」を「花き類・観葉植物」に整理する。

- ②作物名「葉しょうが」、適用病害虫名「根茎腐敗病」ならびに使用目的「前作のきゅうりの古株枯死」「コナジラミ蔓延防止」を追加する。

「使用上の注意事項」について、以下(5)を追加して変更後の内容となりました。(別紙2参照)

(5) 古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマトまたはきゅうりに処理し、被覆期間については以下を目安とすること。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意すること。

- ①地温が15℃以上の時は処理 10 日位
②地温が低い時は処理後 20－30 日位

【本剤に関する問い合わせ先】

日本化薬株式会社 アグロ事業部 営業部営業企画担当(TEL: 03-6731-5321 FAX: 03-6731-5330)

変更後)

7. 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	ｸﾛﾋﾞﾝｸﾘﾝを含む 農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	萎凋病 ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	20～30 ｹ/10a	1 回	耕起整地 後、灌水ﾁｭｰﾌﾞを設置 し、その上 からﾎﾟﾘﾔﾐﾝ等 等で被 覆する。そ の後、液肥 混合器等 を使用し、 本剤を処 理用の水 に混入さ せ処理す る。	3 回以内 (床土 1 回以内、圃 場 2 回以内)
いちご	萎黄病				
	ﾈｸﾞｻﾚﾝﾁｭｳ	20 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			2 回以内 (床土 1 回以内)
なす	半枯病 青枯病	20～30 ｹ/10a			
	青枯病 萎凋病				3 回以内 (床土 1 回以内、圃 場 2 回以内)
ピーマン とうがらし類	青枯病 萎凋病				
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			2 回以内 (床土 1 回以内)
ほうれんそう ごぼう いんげんまめ	萎凋病	20～30 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			3 回以内 (床土 1 回以内、圃 場 2 回以内)
きゅうり	つる割病	20～30 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			
	ﾎﾓﾌﾞｼﾞ根腐病				
うり類 (漬物用、ただし、 漬物用メロンを除く)	つる割病	20～30 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			
すいか	つる割病	20～30 ｹ/10a			2 回以内 (床土 1 回以内)
	ﾎﾓﾌﾞｼﾞ根腐病 ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			
	つる割病	20～30 ｹ/10a			3 回以内 (床土 1 回以内、圃 場 2 回以内)
にがうり	つる割病	20～30 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			2 回以内 (床土 1 回以内)
さやいんげん	萎凋病	20～30 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			2 回以内 (床土 1 回以内)
さやえんどう 実えんどう	根腐病	20～30 ｹ/10a			
	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	30 ｹ/10a			

しょうが 葉しょうが みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	20～30 ㍔/10a			2 回以内(床土 1 回以内)
こまつな	萎黄病				
アスパラガス	立枯病				
	ネコフ センチュウ	30 ㍔/10a			
にら	乾腐病	20～30 ㍔/10a			
ねぎ	萎凋病 根腐萎凋病				3 回以内(床土 1 回以内、圃 場 2 回以内)
	ネコフ センチュウ	30 ㍔/10a			
セルリー	萎黄病	20～30 ㍔/10a			
	ネコフ センチュウ	30 ㍔/10a			
きく	萎凋病 ネグ サセンチュウ ネコフ センチュウ				
花き類・観葉植物 (きくを除く)	萎黄病(フザリウム菌) 萎凋病(フザリウム菌) 株枯病(フザリウム菌) 乾腐病(フザリウム菌) 球根腐敗病(フザリウム菌) 立枯病(フザリウム菌) 葉枯病(フザリウム菌) 腐敗病(フザリウム菌) ネコフ センチュウ				

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｸﾙﾋﾞｸﾘﾝを含む 農薬の総使用回数
トマト ミニトマト いちご ピーマン とうがらし類 きゅうり うり類(漬物用、た だし漬物用メロン を除く) すいか さやいんげん ねぎ セルリー 花き類・観葉植物	前作のトマト、 ミニトマト またはきゅう りの古株枯死、 コナジラミ類 蔓延防止	20ℓ/10a	前作のトマト、 ミニトマト またはきゅう りの収穫終了 後古株撤去前 まで	1 回	灌水チューブを設置 し、その上からポ リエチレン等で被覆す る。その後、液肥 混合器等を使用 し、本剤を処理用 の水に混入させ処 理する。	3 回以内(床土 1 回以 内、圃場 2 回以内)
なす ほうれんそう ごぼう いんげんまめ にがうり さやえんどう 実えんどう しょうが 葉しょうが みょうが(花穂) みょうが(茎葉) こまつな アスパラガス にら						2 回以内(床土 1 回以 内)

(変更後)

8. 使用上の注意事項

- (1) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (2) 本剤の処理に当たっては、作物の播種・植付け前にガスが土壌中に十分拡散するように耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから灌水チューブを設置する。その上からポリエチレン等で被覆し、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理すること。
- (3) 本剤の処理液が直接処理圃場より漏出しないように注意すること。
- (4) 高設栽培等架台上の培地に使用する場合、薬剤がベッドの下部等から散逸しないように、ポリエチレン、ビニール等で施設床面まで被覆すること。また、薬剤を処理する際に、ポリエチレン、ビニール等を伝わって、栽培槽から漏出しないように注意すること。
- (5) 古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマトまたはきゅうりに処理し、被覆期間については以下を目安とすること。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意すること。
 - ①地温が15℃以上の時は処理10日位
 - ②地温が低い時は処理後20～30日位
- (6) 地温が15℃以上の時は処理後10日位、また、地温が低い時は処理後20～30日経過するとガスは大体抜けるが、念のためくわを入れ、土質、気温等により、なお臭気が残っている時は、よく切り返し、完全にガス抜きを行ってから、播種あるいは移植すること。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは特に丁寧に行うよう注意すること。
- (7) 作物の生育中には薬害を生ずるので使用しないこと。隣接地に生育中の作物がある場合には、揮散ガスによる薬害に注意すること。特に、生育中の作物があるハウス内では使用しないこと。
- (8) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有毒な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。

- (9) 他剤と混合しないこと。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤およびカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。
- (10) 金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は水でよく洗うこと。
- (11) 薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (12) 薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ること。
- (13) ミツバチの巣箱周辺では使用を避けること。
- (14) 処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって一様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意すること。特に、初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。